

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校
令和6年5月31日
6月号

「長沢オリンピック」に思う

校長 中西 憲子



長沢小 HP

先週の土曜日、長沢オリンピックを無事に開催することができました。前日当日と長沢小学校は、子どもたちの「わくわく」「うきうき」であふれていました。

私が、長沢オリンピックで最も心配だったことは暑さです。毎年練習の期間から熱中症も含めて天気予報が気になって仕方ありません。前週の土曜日は暑かったので、途中で休憩を入れた方がよいか、気温が高い場合のプログラムを考えておいたほうがよいか等、頭の中は長沢オリンピックでいっぱいでした。当日はお天気に恵まれ本当に感謝です。

もう一つの心配は時間です。5月の学校だよりに書いたように本校ではどの子にもできるだけ活動の機会をつくることを目指して3種目ずつ出場とします。採点もします。2種目にしたり点数を入れなかったりする学校もある中で、3種目実施をするために職員は多くの工夫をしています。例えば、3種目のうち2種目を続けて行い、入退場の時間を節約しています。用具配置やラインの引き直しの計画も綿密に立てています。時間通りに実施することができたことも感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちは短い練習時間の中で、友達と協力しながら練習したり準備をしたりしてきました。特に表現は、ここ数年3年生以上で「エイサー」「ソーラン節」「集団行動」「フラッグ」と学年の演目を固定しているので、進級した実感をもって取り組んでいます。1、2年生も含めてどの学年もすばらしい表現ができました。応援団も大活躍でした。1・2年生は、休み時間に応援団の練習を見てはまねをしていました。開閉会式の代表の子どもたちの堂々とした話しぶりにも感心しました。子どもたちは上級生の姿に憧れの気持ちをもって、「自分もやってみたい」と思うことがたくさんあり、もう次の学年へのモチベーションが高まっているようです。今年度は1回予定していた全校練習が雨でできず、別日も設けませんでした。少し心配でしたが、各係の子どもたちと職員がしっかりと準備をし、支障なく運営できたことにも驚いています。日頃の様々な活動の成果であるとも考えています。

子どもたちの頑張る姿をたくさん見つけることもできました。表現の途中で転んでしまった子がいました。自分の力で立ち上がり最後まで演技を続け、周りの友達から「頑張ったね」「すごいね」とたくさんほめられていました。全力走で隣のコースを走る子が転んでしまったのを見て思わず助けようとした子がいました。終わった後で「助けようとしていたね」「優しいね」と声をかけられていました。今年度の児童会のスローガン「つながり合おう」「認め合おう」「絆の輪を広げよう」を体現する子どもたちの姿を嬉しく思いました。

私たち職員の長沢オリンピックの目標は、「学年や学校が一致団結し、協力しながら達成感を味わう」「主体的に行事に関わることで、学校生活を自分たちでつくりあげる喜びを感じる」「運動に親しみ、きまりやルールを守りながら勝敗を受け入れ、安全に活動する」です。子どもたちの頑張りで目標をしっかりと達成することができました。

小学校、中学校、高校、そして教員になってから毎年、私はこれまで何十回も運動会をやってきました。昭和、平成、令和、時代の変化に伴って運動会の在り方は変わっていますが、運動会の日「子どもたち一人一人」が主役であることはいつの時代も変わりません。今年の長沢オリンピックが私の運動会史上心に残る運動会の一つになったことは言うまでもありません。保護者の皆様のご協力、ご声援に感謝申し上げます。ありがとうございました。